

東日本ユニオン よこはま

J R 東日本労働組合
横浜地方本部
発行者/ 松田 和秀
編集者/ 教育・広報部

横浜地本第5回地方委員会開催

3月4日、川崎市総合自治会館において、横浜地方本部第5回地方委員会を開催し、第6回定期大会から半年間の総括と次期大会までの活動方針を満場一致で決定しました。

怪我で入院中の松田執行委員長に代わり、地方本部を代表して石垣執行副委員長（要旨）は、全組合員参加型の運動で組織の強化・拡大を目指し取り組みを推し進めてきた。2018春闘における労政の変化は、結果としてJR東日本の会社内に多くの労働組合未加入者を生み出し、労働組合に所属していない社員が約7割にのぼり会社の一人勝ちを許している。労働組合の存在意義が問われている今、分散している労働側の力の結集をはかり会社と対峙していくために①安全について②エルダー社員制度について③組織の強化・拡大について④政治的課題について述べ、組合員一人ひとりが組織の未来を展望し、現状を乗り越え職場で働く多くの労働者から信頼される労働組合となること目指し、組織強化・拡大、JR労働者の結集に向けた新たなスタートとなるべく地方委員会となるようあいさつを行いました。



今委員会には、中央本部から佐藤中央執行委員長、長澤組織担当部長。ご来賓として退職者連絡会から小布施会長、由井事務長にご参加いただき、あいさつを受けました。



議長に大船地区分会村松康司委員を選出し、質疑では13名の委員から発言がありました。主には①組織の強化・拡大について②2019春闘について③エルダー社員制度について④職場代表選挙について⑤ダイヤ改正の取り組みについて⑥ライフサイクルについて⑦駅業務執行体制の再構築について⑧情報宣伝活動についての発言が出されました。



足立書記長の集約答弁（要旨）では、課題として2019春闘についてと私たちがどう進むべきなのかを、向こう半年の取り組みの方針を明確にすること。あたたかい人として仲間を思える組織を、この間全組合員の運動でつくってきたと感じた。仲間のために相手を気にする。組織を気にする。人に指摘をする。基本的なことを私たちは意識を持ってあたたかい組織をつくっている。そういう組織をこれからも目指して残していかなければならない。東日本ユニオンの運動を職場から自信を持ち推し進めてきた成果や課題が、委員の発言から進むべき道、方針について肉付けしていただいた。定期大会以降様々な取り組みを職場から作り出し、成果や苦労は組合員の心の中にあると思う。一人ひとりが考えて職場から2019春闘を作り出し、全組合員でユニオンの運動を押し広め、私たちの目指す労働組合の旗を残すたかひをつくり出そうと答弁を行いました。

JR労働者の結集で2019春闘をたたかい抜こう！！

